

令和3年6月22日

一般社団法人 日本医療薬学会

第79回 医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

第79回医療薬学公開シンポジウム実行委員長

岩手医科大学薬学部教授・附属病院薬剤部長

工藤賢三

令和3年6月13日（日）、第79回医療薬学公開シンポジウムを開催致しました。本シンポジウムは、令和2年12月13日に集合形式にて開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、開催形式を集合形式からオンライン形式へ変更して開催することとなりました。オンライン開催により、地域を超え全国から計222名のご参加を頂きました。

本シンポジウムでは、「これからの地域における薬剤師の役割を考える」をテーマに、特別講演Ⅰ（座長：岩手県薬剤師会 会長 畑澤博巳先生）では、帝京平成大学薬学部 教授（前ウエルシア薬局株式会社地域連携推進担当部長）の小原道子先生より「薬局薬剤師が行う地域連携 ～地域連携のタネの撒き方、育て方～」と題してご講演頂きました。在宅医療は地域住民の暮らしを支える事が目的の一つであり、65歳以上の独居の割合が増加傾向である点や地域で暮らす人々の心境の変化などに触れながら、地域薬剤師の連携の進め方について具体的な例を挙げながら丁寧に説明して頂きました。特別講演Ⅱ（座長：みちのく愛隣協会 東八幡平病院 技管兼薬剤科長 工藤琢身先生）では、神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部 副部長 池末裕明先生より「地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割 ～ツールの活用と具体例～」と題し、病院薬剤師の視点からご講演頂きました。神戸市立医療センター中央市民病院では、地域医療連携センターに薬剤師を配置し、転院先の医療機関や退院後の保険調剤薬局に向けた施設間薬剤情報提供書を交付し、入院時および退院時の薬剤や入院中の薬物療法の経過を記載した文書を交付し、病院薬剤師から地域薬剤師へ薬物療法の情報をつなぐ取り組み等について紹介して頂きました。また、シンポジウム（座長：岩手医科大学薬学部 教授・附属病院薬剤部 薬剤部長 工藤賢三先生）では、釜石薬剤師会 副会長 中田義仁先生より「病院薬剤師と薬局薬剤師の連携を構築した手法 ～釜石地域の特徴を活かして～」、岩手県立中央病院薬剤部 主査薬剤師 高橋典哉先生より「病院と保険薬局間の情報共有に対して我々がなすべきこと ～病院薬剤師の立場から～」、岩手医科大学附属病院薬剤部 主任薬剤師 二瓶哲先生より「病院と薬局が連携したがん薬物療法管理を目指して、はじめの一步とこれからやるべきこと」と題し、3名の講師の先生からご講演頂きました。総合討論では、各施設および地域の取り組みと課題について取り上げ、県土が広い岩手県で実施する地域連携の難しさや、地域連携を推進するために行政との協力が必要となる点などの意見が交わされました。

本シンポジウムでは、今後の薬剤師の重要な役割の一つである「地域連携」を推進していくために必要な点について、様々な視点からご講演頂き、参加された先生にとって「地域における薬剤師の在り方」を見つめ直す良い機会となりました。本シンポジウムの開催によって、差が生じている地域医療における薬剤師の関わり方の均霑化につながる事を期待いたします。最後に、ご講演を賜りました講師の先生、座長の労をお取りいただいた先生方、並びに本シンポジウムの企画・運営にご支援・ご協力頂きました日本医療薬学会事務局の皆様にご心からお礼申し上げます。